

要 望 書

国立大学法人山梨大学 学長 前田 秀一郎 殿

国立大学法人山梨大学に農学系大学院を早期に設置いただけますよう、次のとおり要望いたします。

山梨大学におかれましては、平成24年4月に農学系学部の生命環境学部を設置され、教育・研究面はもとより、積極的な地域貢献活動により地域の高等教育機関の中核としての使命を果たしていただいております。また、行政や県内企業などとの産学官連携事業にも意欲的に取り組まれており、本県の発展になくてはならないものと県民の期待も一層高まっております。

さて、本県は農地の約6割が中山間地域にあるという不利な条件にもかかわらず、日本国内有数の果樹産地として実績を誇っております。中でも、ぶどう、もも、すももは、30年以上にわたり生産量日本一を維持しており、それらの販路は首都圏をはじめ国内のみならず海外へも拡がりを見せております。

その一方で、近年、都市開発による農地の減少、農業従事者の減少や高齢化にともなう耕作放棄地の増加など、農業生産基盤の脆弱化が進んでいるとともに、国外地域も含めた産地間競争の激化、地球温暖化など、県内農業を取巻く環境は厳しさを増しています。

今後も本県が果樹産地として発展していくためには、産地間競争に打ち勝てるオリジナル品種の育成や、輸出促進にもつながる果実の長期貯蔵技術の確立、経営安定を図るための省力・低コスト化技術や温暖化に伴う生理障害、病害虫などを防ぐ新たな技術の開発、更には、競争力の高い6次産業化のモデルづくりなど、様々な課題解決が求められております。

また、ワイン醸造においても、本県は国内のワイン製成量の約23%を生産するワイン主要産地となっております。近年は、醸造技術も向上し地域のブランド品として国内市場はもとより海外展開を図っておりますが、更に高品質のワインを市場に供給し、競争力を高めていくためには、醸造用ぶどうの栽培から醸造までの一貫した技術の向上が求められています。

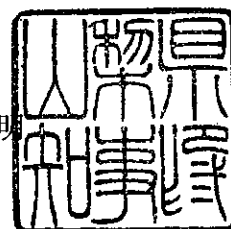
このような状況の中で、貴学に農学系大学院が設置されることで、地域に密着した高度な試験研究が行われ、その知識・技術の普及により本県が直面する課題の解決に繋がります。

また、高度な専門知識・技術を持った卒業生が県内企業等へ就職することにより、本県の産業振興、ひいては人口増にも繋がります、活力ある山梨県の実現が期待されるものであります。

つきましては、本県唯一の国立大学である貴学への農学系大学院の設置を早期に実現され、これまで以上に本県の発展にご尽力をいただけますよう特段のご配慮をお願いします。

平成26年 9月24日

山梨県知事 横内 正 明



要 望 書

国立大学法人 山梨大学
学 長 前田 秀一郎 殿

国立大学法人山梨大学に農学系大学院を早期に設置いただけますよう次のとおり要望いたします。

山梨大学におかれましては、これまで地域社会の中核として本県はもとより全国各地で活躍する優秀な人材を輩出し、平成24年4月には農学系学部の生命環境学部を設置され、行政や県内企業などとの産学官連携事業にも意欲的に取り組まれており、本県の発展になくてはならないものと、県民の期待もますます高まっております。

国内最大の「ぶどう」、「桃」、「すもも」、「ミネラルウォーター」の生産量を誇り、国内ワインの約4割を生産する日本一のワイン王国でもある山梨県をめぐる昨今の環境は、2013年3月のジェトロ山梨貿易情報センターの開所、同年6月の富士山世界文化遺産登録や2027年の開業を目指すリニア中央新幹線の新駅決定並びに着工開始、また2017年度には中央自動車道と新東名高速道路が中部横断自動車道を通じて繋がる見込みとなるなど地方創生及び経済発展に向けて大きな変革を迎える時期に来ております。

このように山梨県は、果樹やワインの生産・加工・流通が主要な地場産業となっており、地域資源の持続的な活用と今後更なる振興のため、貴学に農学、社会科学系大学院が設置され、大学が保有する技術シーズの活用、共同研究や貴学の人的資源を活用した企業との連携と地域に密着した高度な研究と高度専門技術者を育成されることにより、山梨県の産業経済の活性化と発展につながるものと大いに期待しております。

つきましては、山梨県唯一の国立大学である貴学への農学系、社会科学系大学院の設置を実現されますよう特段のご配慮をお願いします。

平成26年10月2日

山梨県商工会議所連合会
会長 金丸 康 信



学生対象大学院進学希望調査票(2・3年生)

【農学・生命環境系大学院の設置について】

山梨大学では、現在、「生命環境学部」に接続する農学・生命環境系大学院修士課程(1専攻3コース)の開設(平成28年4月)に向けて準備を進めています(表1参照)。

本大学院では、「生命環境学部」における教育との接続を重視したカリキュラムにより、これまで身に付けた知識や技術をより実践的に深め、広範な知識と技術をもって多様化・複雑化する現代の諸問題について解決に導くことができる高度専門職業人の育成を目指します。

つきましては、在学中の皆さんの意向を本大学院の開設に反映させたいと考えておりますので、次ページの調査にご協力ください。

表1 農学系大学院の概要

専攻名	コース名	特色と養成する人材像
生命環境学専攻 (修士課程) 「広範な知識と技術をもって人類にとって最も普遍的で重要な課題である「食と健康」や「生命と環境」に関わる諸問題を解決する高度専門職業人の育成を行う」	バイオサイエンスコース	微生物や酵素などの生物機能を産業に応用するために必要な、バイオサイエンスの知識と基盤技術を修得し、さらにそれを医学や環境分野に広げて活用できる高度専門職業人の育成を目標としています。 【具体的な人材例と活躍の場】 再生医療支援人材(細胞培養士、臨床細胞培養士)、不妊治療クリニック従事者(生殖補助医療管理胚培養士)、実験動物技術者、食品系企業の技術者、医薬品開発技術者など
	食物・ワイン科学コース	第6次産業として付加価値の高い食品のあり方を、ワイン産業をモデルとしながら科学的に探求し、食品の原料生産、加工・販売、食の安全まで、食品産業の全体を見渡せ、指導的な立場で活躍できる高度専門職業人の育成を目標としています。 【具体的な人材例と活躍の場】 食品会社(原料調達、加工、販売、流通など)、ワイナリー(ブドウ生産、ワイン製造、販売、流通)、農業高校教員、農業経営、JA、医薬品開発技術者など
	環境社会システムコース	農学を基盤とした文理融合教育によって、「食と健康」及び「生命と環境」に関わる複雑で多様な諸課題に対して「環境・経営」面からアプローチし、それらを解決へと導くことのできる高度専門職業人の育成を目標としています。 【具体的な人材例と活躍の場】 JA、環境コンサルタント、総合商社、食品関連、金融・保険業、エネルギー、環境分析技術者、公務員、企業のCSR部門、SEなど

(注記)設置計画及び専攻名、コース名等は、予定であり変更となることがあります。

6. その他() 7. 特に理由はない

Q5 Q3で「1」あるいは「2」と回答した方に伺います。

博士課程への進学について伺います。博士課程は、平成30年4月設置に向けて構想を検討する予定でおります。博士課程への進学について現時点での希望をお答えください。

1. 進学したい
2. どちらかというに進学したい
3. 博士課程への進学は考えていない
4. 未定

Q6 大学卒業後(大学院修了後)の就職・進路について伺います。

Q6-1 1～9の中で、第一志望はどれですか。

- | | | | | |
|----------------|----------------|------------|------------|-------|
| 1. 民間企業・団体(県内) | 2. 民間企業・団体(県外) | 3. 公務員(県内) | 4. 公務員(県外) | |
| 5. 大学院進学(本学以外) | 6. 海外留学 | 7. 起業家 | 8. その他() | 9. 未定 |

Q6-2 1～9の中で第二志望はどれですか。

- | | | | | |
|----------------|----------------|------------|------------|-------|
| 1. 民間企業・団体(県内) | 2. 民間企業・団体(県外) | 3. 公務員(県内) | 4. 公務員(県外) | |
| 5. 大学院進学(本学以外) | 6. 海外留学 | 7. 起業家 | 8. その他() | 9. 未定 |

以上です。ご協力ありがとうございました。

学生向けアンケート集計表

学生の属性					合計
学年	生命工学科	地域食物学科	環境科学科	地域システム学科	
2年	32	30	25	31	118
3年	37	34	31	24	126
合計	69	64	56	55	244

Q1 平成28年4月に設置予定の修士課程生命環境学専攻に興味がありますか。

学年	項番	項目	生命工学科		地域食物学科		環境科学科		地域システム学科		合計	
2年	1	大変興味がある	14	44%	6	20%	6	24%	3	10%	29	25%
	2	多少興味がある	13	41%	17	57%	14	56%	10	32%	54	46%
	3	学部卒業後、他の進路(他の大学院、就職等)を考えているので興味はない	5	16%	7	23%	5	20%	18	58%	35	30%
	合計		32		30		25		31		118	
3年	1	大変興味がある	24	65%	10	29%	11	35%	2	8%	47	37%
	2	多少興味がある	7	19%	14	41%	12	39%	8	33%	41	33%
	3	学部卒業後、他の進路(他の大学院、就職等)を考えているので興味はない	6	16%	10	29%	8	26%	14	58%	38	30%
	合計		37		34		31		24		126	

Q2 生命環境学専攻の一番興味のあるコースはどれですか。

学年	項番	項目	生命工学科		地域食物学科		環境科学科		地域システム学科		合計	
2年	1	バイオサイエンスコース	25	93%	0	0%	4	20%	0	0%	29	35%
	2	食物・ワイン科学コース	1	4%	22	96%	1	5%	0	0%	24	29%
	3	環境社会システムコース	1	4%	1	4%	13	65%	13	100%	28	34%
	4	その他	0	0%	0	0%	2	10%	0	0%	2	2%
	合計		27		23		20		13		83	
3年	1	バイオサイエンスコース	30	97%	2	8%	3	13%	0	0%	35	40%
	2	食物・ワイン科学コース	1	3%	21	88%	2	9%	2	20%	26	30%
	3	環境社会システムコース	0	0%	1	4%	14	61%	8	80%	23	26%
	4	その他	0	0%	0	0%	4	17%	0	0%	4	5%
	合計		31		24		23		10		88	

Q3 Q2で回答したコースに進学したいと考えますか。

学年	項番	項目	生命工学科		地域食物学科		環境科学科		地域システム学科		合計	
2年	1	進学したい	6	22%	5	23%	3	15%	1	8%	15	18%
	2	どちらかというに進学したい	13	48%	5	23%	7	35%	1	8%	26	32%
	3	未定	8	30%	12	55%	10	50%	11	85%	41	50%
	合計		27		22		20		13		82	
3年	1	進学したい	20	65%	9	38%	3	13%	1	10%	33	38%
	2	どちらかというに進学したい	5	16%	5	21%	10	43%	1	10%	21	24%
	3	未定	6	19%	10	42%	10	43%	8	80%	34	39%
	合計		31		24		23		10		88	

Q4 Q3で「1」あるいは「2」と回答した方に伺います。大学院進学に関しての動機づけとなる一番の理由はなんですか。

学年	項番	項目	生命工学科		地域食物学科		環境科学科		地域システム学科		合計	
2年	1	興味ある分野の研究をしたい	7	37%	7	70%	6	60%	2	67%	22	52%
	2	学部で身に付けた知識・技能を更に深めたい	3	16%	1	10%	3	30%	1	33%	8	19%
	3	広い世界で仕事・研究ができる	4	21%	1	10%	0	0%	0	0%	5	12%
	4	地元貢献したい	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
	5	大学等の教育機関、企業等で研究・開発に携わりたい	3	16%	0	0%	1	10%	0	0%	4	10%
	6	その他	1	5%	1	10%	0	0%	0	0%	2	5%
	7	特に理由はない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	合計		19		10		10		3		42	
3年	1	興味ある分野の研究をしたい	11	44%	5	24%	10	77%	0	0%	26	43%
	2	学部で身に付けた知識・技能を更に深めたい	10	40%	10	48%	1	8%	1	50%	22	36%
	3	広い世界で仕事・研究ができる	1	4%	3	14%	2	15%	0	0%	6	10%
	4	地元貢献したい	0	0%	0	0%	0	0%	1	50%	1	2%
	5	大学等の教育機関、企業等で研究・開発に携わりたい	1	4%	2	10%	0	0%	0	0%	3	5%
	6	その他	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	1	2%
	7	特に理由はない	2	8%	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%
	合計		25		21		13		2		61	

Q5 Q3で「1」あるいは「2」と回答した方に伺います。博士課程への進学について伺います。博士課程は、平成30年4月設置に向けて構想を検討する予定であります。博士課程への進学について現時点での希望をお答えください。												
学年	項番	項目	生命工学科		地域食物学科		環境科学科		地域システム学科		合計	
2年	1	進学したい	1	5%	2	18%	1	11%	1	33%	5	12%
	2	どちらかというに進学したい	5	26%	2	18%	3	33%	1	33%	11	26%
	3	博士課程への進学は考えていない	6	32%	5	45%	4	44%	1	33%	16	38%
	4	未定	7	37%	2	18%	1	11%	0	0%	10	24%
	合計			19		11		9		3		42
3年	1	進学したい	4	16%	2	15%	1	8%	0	0%	7	13%
	2	どちらかというに進学したい	7	28%	2	15%	0	0%	1	50%	10	19%
	3	博士課程への進学は考えていない	11	44%	6	46%	7	54%	1	50%	25	47%
	4	未定	3	12%	3	23%	5	38%	0	0%	11	21%
	合計			25		13		13		2		53

Q6-1 大学卒業後(大学院修了後)の就職・進路について伺います。1~9の中で、第一志望はどれですか。												
学年	項番	項目	生命工学科		地域食物学科		環境科学科		地域システム学科		合計	
2年	1	民間企業・団体(県内)	0	0%	1	3%	2	8%	4	13%	7	6%
	2	民間企業・団体(県外)	13	42%	14	47%	6	25%	12	39%	45	39%
	3	公務員(県内)	3	10%	4	13%	2	8%	8	26%	17	15%
	4	公務員(県外)	2	6%	3	10%	2	8%	5	16%	12	10%
	5	大学院進学(本学以外)	7	23%	2	7%	9	38%	1	3%	19	16%
	6	海外留学	1	3%	1	3%	0	0%	0	0%	2	2%
	7	起業家	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
	8	その他	2	6%	0	0%	0	0%	0	0%	2	2%
	9	未定	2	6%	5	17%	3	13%	1	3%	11	9%
	合計			31		30		24		31		116
3年	1	民間企業・団体(県内)	5	14%	4	12%	3	10%	1	4%	13	10%
	2	民間企業・団体(県外)	21	58%	19	58%	21	68%	5	21%	66	53%
	3	公務員(県内)	1	3%	1	3%	2	6%	13	54%	17	14%
	4	公務員(県外)	3	8%	1	3%	3	10%	5	21%	12	10%
	5	大学院進学(本学以外)	2	6%	5	15%	0	0%	0	0%	7	6%
	6	海外留学	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	7	起業家	2	6%	1	3%	0	0%	0	0%	3	2%
	8	その他	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	1	1%
	9	未定	2	6%	1	3%	2	6%	0	0%	5	4%
	合計			36		33		31		24		124

Q6-2 大学卒業後(大学院修了後)の就職・進路について伺います。1~9の中で、第二志望はどれですか。												
学年	項番	項目	生命工学科		地域食物学科		環境科学科		地域システム学科		合計	
2年	1	民間企業・団体(県内)	7	23%	5	17%	1	4%	9	29%	22	19%
	2	民間企業・団体(県外)	5	16%	3	10%	7	30%	8	26%	23	20%
	3	公務員(県内)	0	0%	2	7%	3	13%	2	6%	7	6%
	4	公務員(県外)	5	16%	8	27%	7	30%	5	16%	25	22%
	5	大学院進学(本学以外)	8	26%	4	13%	1	4%	4	13%	17	15%
	6	海外留学	2	6%	1	3%	0	0%	1	3%	4	3%
	7	起業家	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
	8	その他	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	9	未定	3	10%	7	23%	4	17%	2	6%	16	14%
	合計			31		30		23		31		115
3年	1	民間企業・団体(県内)	11	31%	7	23%	11	37%	11	46%	40	33%
	2	民間企業・団体(県外)	8	22%	10	32%	7	23%	3	13%	28	23%
	3	公務員(県内)	3	8%	2	6%	2	7%	3	13%	10	8%
	4	公務員(県外)	3	8%	4	13%	4	13%	3	13%	14	12%
	5	大学院進学(本学以外)	0	0%	2	6%	1	3%	3	13%	6	5%
	6	海外留学	2	6%	3	10%	0	0%	0	0%	5	4%
	7	起業家	2	6%	0	0%	0	0%	0	0%	2	2%
	8	その他	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
	9	未定	6	17%	3	10%	5	17%	1	4%	15	12%
	合計			36		31		30		24		121

各 位

山梨大学新大学院開設準備室
連絡先 山梨大学企画課
TEL 055-220-8071

山梨大学大学院修士課程「生命環境学専攻（仮称）」設置 に係るアンケート調査

山梨大学は、地域社会の持続的な繁栄を実現するため必要な、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政の各分野で活躍できる実践的専門職業人の育成を目指し、平成24年4月に生命環境学部（生命工学科、地域食物科学科、環境科学科、地域社会システム学科）を設置しました。平成28年度に最初の卒業生を送り出すこととなりますが、卒業する学生がさらにその専門性を高めていけるよう、学部へ接続する農学系大学院修士課程「生命環境学専攻（仮称）」の設置に向けて準備を進めています。以下の3つのコースを設定することとしておりますが、これらのコースに対するご要望と修了生に対する採用のご意向等についてお伺いしたいと思います。このアンケート結果は、大学院設置のための基礎となる大学の内部資料としてのみ用い、それ以外の目的には使用致しません。また貴社およびお答えいただいた個人名を公表することはありません。忌憚のないご意見ご要望をお聞かせいただきたく、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

山梨大学大学院修士課程「生命環境学専攻（仮称）」について（概要）

- 山梨県で初めての農学系大学院修士課程で、「生命・食・環境・経営」に関する高度専門職業人を育成します。
- バイオサイエンスコース、食物・ワイン科学コース、環境社会システムコースの3つのコースがあり、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関して学びます。

各コースの概要は次のとおりです。

バイオサイエンスコース

微生物や酵素などの生物機能を産業に応用するために必要な、バイオサイエンスの知識と基盤技術を修得し、さらにそれを医学や環境分野に広げて活用できる高度専門職業人の育成を目標としています。

【具体的な人材例と活躍の場】

再生医療支援人材（細胞培養士、臨床細胞培養士）、不妊治療クリニック従事者（生殖補助医療管理胚培養士）、実験動物技術者、食品系企業の技術者、医薬品開発技術者など

食物・ワイン科学コース

第6次産業として付加価値の高い食品のあり方を、ワイン産業をモデルとしながら科学的に探求し、食品の原料生産、加工・販売、食の安全まで、食品産業の全体を見渡せる高度専門職業人の育成を目標としています。

【具体的な人材例と活躍の場】

食品会社（原料調達、加工、販売、流通など）、ワイナリー（ブドウ生産、ワイン製造、販売、流通）、農業高校教員、農業経営、JA、医薬品開発技術者など

環境社会システムコース

農学を基盤とした文理融合教育によって、「食と健康」及び「生命と環境」に関わる複雑で多様な諸課題に対して「環境・経営」面からアプローチし、それらを解決へと導くことのできる高度専門職業人の育成を目標としています。

【具体的な人材例と活躍の場】

JA、環境コンサルタント、総合商社、食品関連、金融・保険業、エネルギー、環境分析技術者、公務員、企業のCSR部門、SEなど

アンケートの設問

1. 「生命環境学専攻（仮称）」の教育への期待について」おたずねします（専攻の概要をご参照下さい）。

問1 生命環境学専攻（仮称）の教育内容（生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政）についてどう思われますか。次の中から該当するものを一つだけ選び、番号に○を付けて下さい。

1. 大いに興味・関心がある
2. 興味・関心がある
3. あまり興味・関心はない
4. 全く興味・関心がない

問2 それは、どのような理由からですか。次の中から該当するものを一つだけ選び、番号に○を付けて下さい。

1. 社会において不足している分野の人材を育成してくれそうな大学院だから
2. 我が社が求めている人材を育成してくれそうな大学院だから
3. 山梨大学にこれまでなかった分野の教育を行う大学院だから
4. その他（具体的に： _____)

問3 貴社（あなたがお勤めの事業所）では、将来的に生命環境学専攻（仮称）の修了者を採用する可能性がありますか。次の中から該当するものを一つだけ選び、番号に○を付けて下さい。

1. 採用する可能性が大きい
2. 採用する可能性がある
3. 採用する可能性は小さい
4. その他（ _____)

問4 修了者の採用にあたって、貴社はどのコースから採用されますか。次の中から該当するものを選び、番号に○を付けて下さい（複数回答可）。

1. バイオサイエンスコース
2. 食物・ワイン科学コース
3. 環境社会システムコース
4. 特定のコースにではなく、専攻全体に興味がある

問5 生命環境学専攻（仮称）の設置について、ご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

2. 「貴社の業種、所在地と従業員規模について」おたずねします。

問6 貴社の業種は次のどれに該当しますか。一つ選び、番号に○を付けて下さい。
(業種分類は「日本標準産業分類」によります。)

- 1 農・林業 2 鉱業・建設・製造 3 電気・ガス・水道 4 情報通信
5 運輸、卸売、小売 6 金融、保険、不動産 7 研究開発、専門技術サービス
8 宿泊、飲食サービス 9 生活関連サービス 10 教育・学習支援
11 医療・福祉 12 その他(具体的に)

問7 貴社の所在地はどこですか。一つ選び、番号に○を付けて下さい。

- 1 山梨県内 2 山梨県外

問8 貴社の従業員規模は次のうちどれですか。一つ選び、番号に○を付けて下さい。

- 1 10人未満 2 10人以上50人未満 3 50人以上100人未満
4 100人以上300人未満 5 300人以上

これでアンケートは終わりです。大変お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

企業向けアンケート集計表

	合計
回答収集数	217
合計	217

Q1 生命環境学専攻(仮称)の教育内容(生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政)についてどう思われますか。			
	項番	項目	合計
	1	大いに興味・監視がある	85 39%
	2	興味・関心がある	120 55%
	3	あまり興味・関心はない	12 6%
	4	全く興味・関心がない	0 0%
		合計	217

Q2 それは、どのような理由からですか。			
	項番	項目	合計
	1	社会において不足している分野の人材を育成してくれそうな大学院だ	96 45%
	2	我が社が求めている人材を育成してくれそうな大学院だから	36 17%
	3	山梨大学にこれまでなかった分野の教育を行う大学院だから	53 25%
	4	その他	30 14%
		合計	215

Q3 貴社(あなたがお勤めの事業所)では、将来的に生命環境学専攻(仮称)の修了者を採用する可能性がありますか。			
	項番	項目	合計
	1	採用する可能性が大きい	39 18%
	2	採用する可能性がある	128 59%
	3	採用する可能性は小さい	25 12%
	4	その他	25 12%
		合計	217

Q4 修了者の採用にあたって、貴社はどのコースから採用されますか。(複数回答可)			
	項番	項目	合計
	1	バイオサイエンスコース	57 22%
	2	食物・ワイン科学コース	76 30%
	3	環境社会システムコース	46 18%
	4	特定のコースにではなく、専攻全体に興味がある	76 30%
	5	分からない	2 1%
		合計	257

Q6 貴社の業種は次のどれに該当しますか。			
	項番	項目	合計
	1	農・林業	6 3%
	2	鉱業・建設・製造	102 47%
	3	電気・ガス・水道	3 1%
	4	情報通信	12 6%
	5	運輸、卸売、小売	9 4%
	6	金融、保険、不動産	3 1%
	7	研究開発、専門技術サービス	29 13%
	8	宿泊、飲食サービス	1 0%
	9	生活関連サービス	7 3%
	10	教育・学習支援	4 2%
	11	医療・福祉	4 2%
	12	それ以外	37 17%
		合計	217

Q7 貴社の所在地はどこですか。			
	項番	項目	合計
	1	山梨県内	88 41%
	2	山梨県外	129 59%
		合計	217

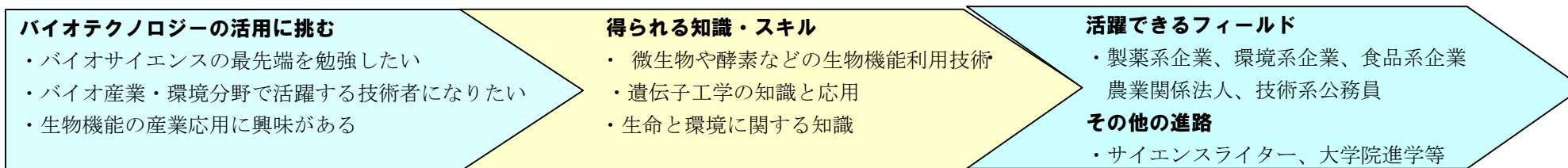
Q8 貴社の従業員規模は次のうちどれですか。			
項番	項目	合計	
1	10人未満	16	7%
2	10人以上50人未満	25	12%
3	50人以上100人未満	21	10%
4	100人以上300人未満	35	16%
5	300人以上	117	55%
合計		214	

教育スケジュール及び指導グループ制

別添資料3

1年次	4月	入学ガイダンス 初年次指導教員グループ ¹⁾ を組織	<p>1) 初年次指導教員グループは、主指導教員1名、副指導教員2名以上で構成する。主指導教員は、学生が所属するコースを担当する専任教員(○合)とする。副指導教員のうち少なくとも1名は学生が所属するコース以外を担当する専任教員とする。</p> <p>2) 研究発表特論A、B及びインターンシップは通年科目として設定し、1,2年次に履修可能である。 研究発表特論A、Bは、権威ある学会での発表した場合に、大学設置基準第21条に基づくの単位として認める。 インターンシップは1年次の夏期休業時の履修を標準的な履修時期として推奨する。1週間(40時間)のインターンシップの実施で1単位として、実施期間に応じてインターンシップ I、IIの単位を与える。一度に2週間(80時間)のインターンシップを実施した場合は、インターンシップ I、IIの単位を同時に与える。</p>
	4月	大学院共通科目 専攻共通科目 ・生命環境学演習A ・生命環境学研究A ・研究発表特論A、B ²⁾ など	
	8月	専門科目 関連科目	
	8月 9月	インターンシップ I ²⁾ インターンシップ II	
	10月	大学院共通科目 専攻共通科目 ・生命環境学演習B ・生命環境学研究B ・研究発表特論A、B ²⁾ など	
	2月	専門科目 関連科目	
2月 3月	初年次指導教員グループによる中間評価 (成果発表会、レポート提出など)		
2年次	4月	2年次ガイダンス 修士論文指導教員グループ ³⁾ を組織 修士論文の研究テーマを決定	<p>3) 修士論文指導教員グループは、主指導教員1名、副指導教員2名以上で構成する。主指導教員は、学生が所属するコースを担当する専任教員(○合)とする。副指導教員のうち少なくとも1名は、学生が所属するコースを担当する専任教員とする。</p> <p>4) 論文審査委員会は、主査1名、副査2名以上の専任教員で構成する。主査は、修士論文指導教員グループの主指導教員が務める。副査は、修士論文指導教員グループの副指導教員を含む専任教員2名以上とする。</p>
	4月	専門発展科目 ・コース演習A ・コース研究A ・研究発表特論A、B ²⁾ など	
	8月	関連科目	
	8月 9月	インターンシップ I ²⁾ インターンシップ II	
	10月	修士論文の題目を決定 専門発展科目 ・コース演習B ・コース研究B ・研究発表特論A、B ²⁾ など	
	1月	関連科目 論文審査委員会 ⁴⁾ を設置	
	2月	修士論文審査及び最終試験 修士論文発表会を実施	
3月	修了 修士(農学)、修士(学術)		

【バイオサイエンスコース】（微生物・酵素の生命機能）バイオ産業・環境関係の企業で研究・開発職を目指す場合の履修モデル



地球生命圏の生物多様性から、タンパク質の構造、ナノバイオテクノロジー等を幅広く学びます。微生物の応用、バイオマスの高度利用など実践的な研究や、先端技術駆使したバイオテクノロジーで、生命・環境に関わる諸問題の解決を目指します。

【大学院共通科目】

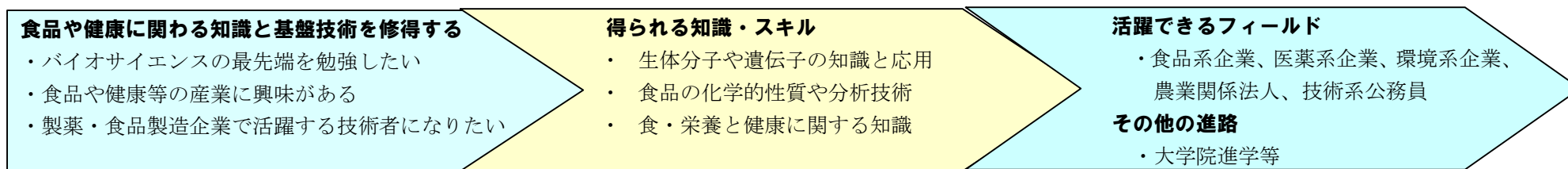
2 単位以上：科学者倫理、キャリアマネジメント・サイエンスコミュニケーション

【専門履修モデル①】 ◎は必修

専攻共通科目：10 単位以上、専門科目：9 単位以上 専門発展科目：6 単位以上 【修了必要単位数】 30 単位以上

年次	1 年次		2 年次	
	前期	後期	前期	後期
大学院共通科目	◎科学者倫理①	サイエンスコミュニケーション①		
専攻共通科目	◎生命環境学特論② ◎生命環境学演習 A① ◎生命環境学研究 A②	◎応用生命環境学特論② ◎生命環境学演習 B① ◎生命環境学研究 B②		
専門科目	構造生物学特論② 応用微生物学特論② 生物有機化学特論② 環境微生物資源学特論②	生命情報学特論②		
専門発展科目			◎バイオサイエンス演習 A① ◎バイオサイエンス研究 A②	◎バイオサイエンス演習 B① ◎バイオサイエンス研究 B②
関連科目			食品成分分析学特論②	
単位数	14 単位	8 単位	5 単位	3 単位

【バイオサイエンスコース】（食・栄養と健康）製薬関係・食品製造企業で研究・開発職を目指す場合の履修モデル



食品や健康、製薬産業と関わりの深い技術や知識を学びます。食品の化学的性質や成分の分析技術、栄養と健康等知識と技術を修得し、食と健康への貢献を目指します。

【大学院共通科目】

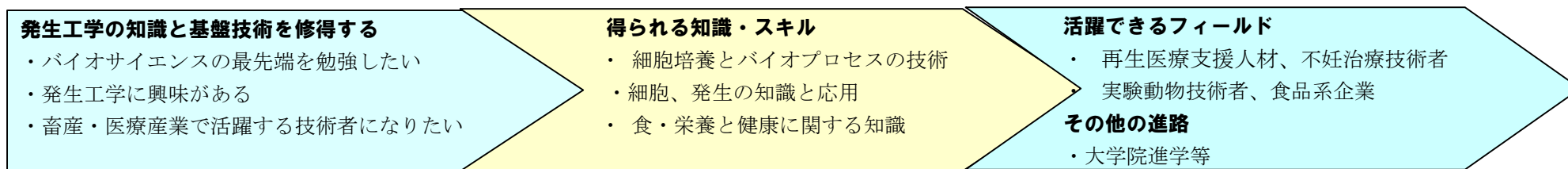
2 単位以上：科学者倫理、キャリアマネジメント・サイエンスコミュニケーション

【専門科目履修モデル②】 ◎は必修

専攻共通科目：10 単位以上、専門科目：9 単位以上 専門発展科目：6 単位以上 【修了必要単位数】 30 単位以上

年次	1 年次		2 年次	
	前期	後期	前期	後期
大学院共通科目	◎科学者倫理① キャリアマネジメント①			
専攻共通科目	◎生命環境学特論② ◎生命環境学演習 A① ◎生命環境学研究 A②	◎応用生命環境学特論② ◎生命環境学演習 B① ◎生命環境学研究 B② インターンシップ I ①		
専門科目	構造生物学特論② 生物有機化学特論② 代謝栄養学特論② 細胞生産プロセス工学特論①			
専門発展科目			◎バイオサイエンス演習 A① ◎バイオサイエンス研究 A②	◎バイオサイエンス演習 B① ◎バイオサイエンス研究 B②
関連科目		環境浄化技術特論②	食品成分分析学特論②	
単位数	14 単位	8 単位	5 単位	3 単位

[バイオサイエンスコース] (発生工学・医農工融合) 発生工学の技術を修得し、医療系サービス業の技術や研究職を目指す場合の履修モデル



胚操作や細胞培養、発生工学技術を学びます。これらの高度な技術を活用し、アカデミアや産業界で活躍できる実践的な高度専門職業人を目指します。

【大学院共通科目】

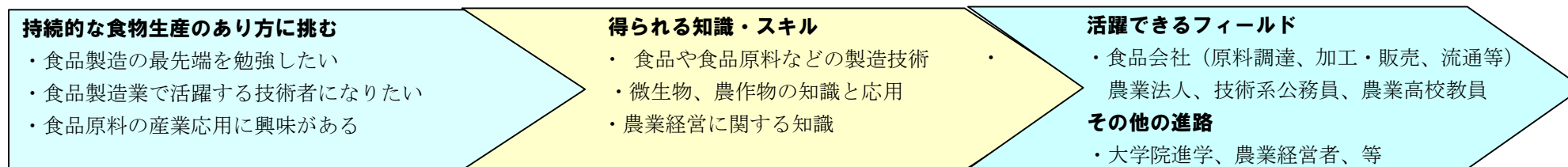
2 単位以上：科学者倫理、キャリアマネジメント・サイエンスコミュニケーション

【専門科目履修モデル③】 ◎は必修

専攻共通科目：10 単位以上、専門科目：9 単位以上 専門発展科目：6 単位以上 【修了必要単位数】 30 単位以上

年次	1 年次		2 年次	
	前期	後期	前期	後期
大学院共通科目	◎科学者倫理① キャリアマネジメント①			
専攻共通科目	◎生命環境学特論② ◎生命環境学演習 A① ◎生命環境学研究 A②		◎応用生命環境学特論② ◎生命環境学演習 B① ◎生命環境学研究 B②	
専門科目	細胞生産プロセス工学特論① 発生工学特論② 発生制御学特論② 代謝栄養学特論②		生命情報学特論②	
専門発展科目			◎バイオサイエンス演習 A① ◎バイオサイエンス研究 A②	◎バイオサイエンス演習 B① ◎バイオサイエンス研究 B②
関連科目			実験動物学・動物倫理学概論① 生命科学特論 II (病態制御) ②	
単位数	14 単位	8 単位	5 単位	3 単位

【食物・ワイン科学コース】（食物科学）食品製造を主とする企業で研究・開発職を目指す場合のモデル



付加価値が高く持続的な食物生産のあり方を科学的に探究し、食品産業を原料生産、加工・販売、衛生管理から経営まで、第6次産業として多面的に見渡すことができる高度専門職業人の育成を目指します。

【大学院共通科目】

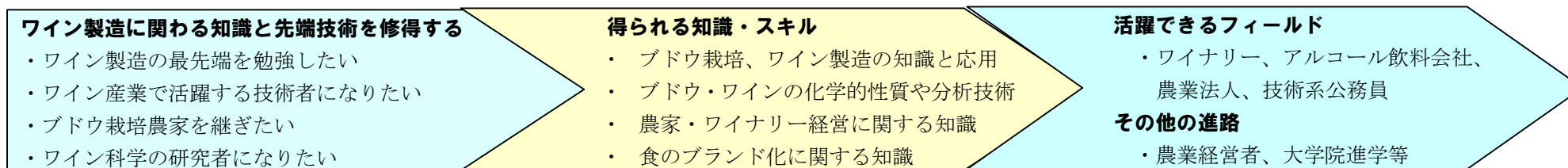
2 単位以上：科学者倫理、キャリアマネジメント・サイエンスコミュニケーション

【専門科目履修モデル①】 ◎は必修

専攻共通科目：10 単位以上、専門科目：9 単位以上 専門発展科目：6 単位以上 【修了必要単位数】 30 単位以上

年次	1 年次		2 年次	
	前期	後期	前期	後期
大学院共通科目	◎科学者倫理①	サイエンスコミュニケーション①		
専攻共通科目	◎生命環境学特論② ◎生命環境学演習 A① ◎生命環境学研究 A②	◎応用生命環境学特論② ◎生命環境学演習 B① ◎生命環境学研究 B②		
専門科目	◎食品成分分析学特論② ◎食品物性工学特論②	◎農作物栽培整理学特論② ◎農作物・食品製造実習① 地域食品ブランド学特論① 地域食品企業経営学特論①	地域食品企業インターンシップ②	
専門発展科目			◎食物・ワイン科学演習 A① ◎食物・ワイン科学研究 A②	◎食物・ワイン科学演習 B① ◎食物・ワイン科学研究 B②
関連科目			細胞生産プロセス工学特論①	
単位数	10 単位	11 単位	6 単位	3 単位

【食物・ワイン科学コース】（ワイン科学）ワイン産業で活躍できる実践的な高度専門職業人を目指す場合のモデル



ワイン産業に関わりの深い知識や技術を学びます。ブドウ栽培から官能評価、ワイナリー経営や食のブランド化まで幅広く修得し、ワイナリー産業に貢献しうる高度専門職業人の育成を目指します。

【大学院共通科目】

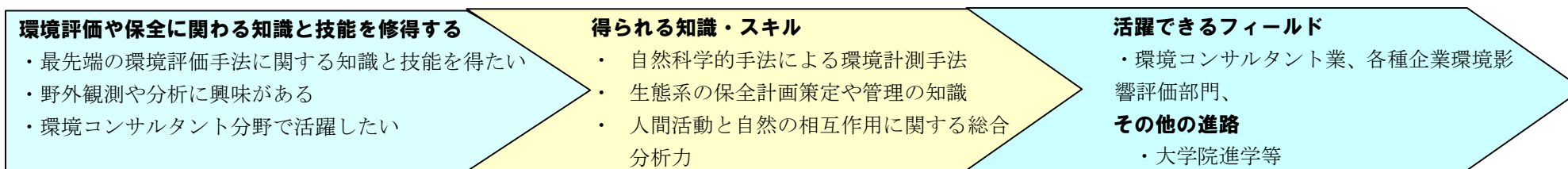
2 単位以上：科学者倫理、キャリアマネジメント・サイエンスコミュニケーション

【専門科目履修モデル①】 ◎は必修

専攻共通科目：10 単位以上、専門科目：9 単位以上 専門発展科目：6 単位以上 【修了必要単位数】 30 単位以上

年次	1 年次		2 年次	
	前期	後期	前期	後期
大学院共通科目	◎科学者倫理① キャリアマネジメント①			
専攻共通科目	◎生命環境学特論② ◎生命環境学演習 A① ◎生命環境学研究 A②	◎応用生命環境学特論② ◎生命環境学演習 B① ◎生命環境学研究 B②		
専門科目	◎食品成分分析学特論② ◎食品物性工学特論②	◎農作物栽培生理学特論② ◎農作物・食品製造実習① ワイン醸造学特論① ブドウ栽培学特論① ワイン評価学特論①	地域食品企業インターンシップ②	
専門発展科目			◎食物・ワイン科学演習 A① ◎食物・ワイン科学研究 A②	◎食物・ワイン科学演習 B① ◎食物・ワイン科学研究 B②
単位数	11 単位	11 単位	5 単位	3 単位

[地域環境マネジメントコース] (環境評価モデル) 環境計測、アセスメントの研究者・技術者をめざす履修モデル



自然科学的手法による環境影響評価技術に関する知識と技能を学びます。また、分野横断型カリキュラムによって幅広い素養と問題解決力を身に付け、自然環境の保全に貢献できる高度専門職業人をめざします。

【大学院共通教育科目】

2 単位以上：科学者倫理、キャリアマネジメント・サイエンスコミュニケーション

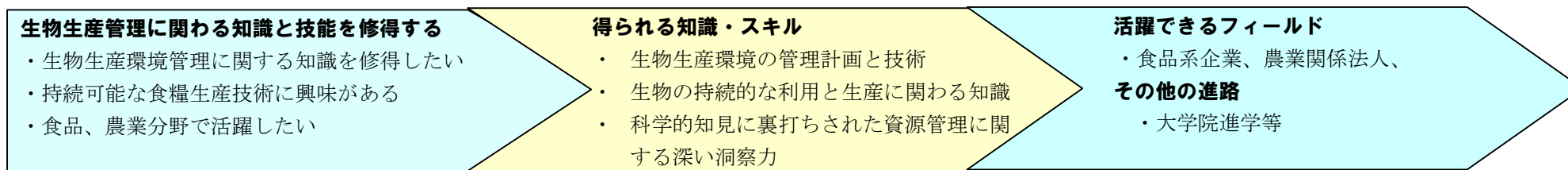
【専門科目履修モデル①】 ◎必修、 専門科目群 (赤字：環境共生圏科目群 緑字：地域社会科目群)

専攻共通科目：10 単位以上、専門科目：12 単位以上 専門発展科目：6 単位以上 【修了必要単位数】 30 単位以上

ただし、専門科目 (赤または緑) は主履修科目群から 8 単位以上、副履修科目群から 4 単位以上修得

年次	1 年次		2 年次	
	前期	後期	前期	後期
大学院共通科目	◎科学者倫理①	サイエンスコミュニケーション①		
専攻共通科目	◎生命環境学特論② ◎生命環境学演習 A① ◎生命環境学研究 A②	◎応用生命環境学特論② ◎生命環境学演習 B① ◎生命環境学研究 B②		
専門科目	気水圏環境動態解析特論② 環境計測評価特論② 環境共生圏科学実習① 環境資源経済学特論②	生物圏環境動態解析特論② 生物生産環境特論② 多文化共生特論②		
専門発展科目			◎地域環境マネジメント演習 A① ◎地域環境マネジメント研究 A②	◎地域環境マネジメント演習 B① ◎地域環境マネジメント研究 B②
単位数	13 単位	12 単位	3 単位	3 単位

[地域環境マネジメントコース] (生物生産管理モデル) 持続可能な生物生産環境管理の研究者・技術者を目指す履修モデル



生物生産環境のデザインと管理技術および生物資源の持続的利用に関する知識と技能を学びます。また、分野横断型カリキュラムによって幅広い素養と問題解決力を身に付け、持続可能な生物生産環境の創出に貢献できる人材を目指します。

【大学院共通教育科目】

2 単位以上：科学者倫理、キャリアマネジメント・サイエンスコミュニケーション

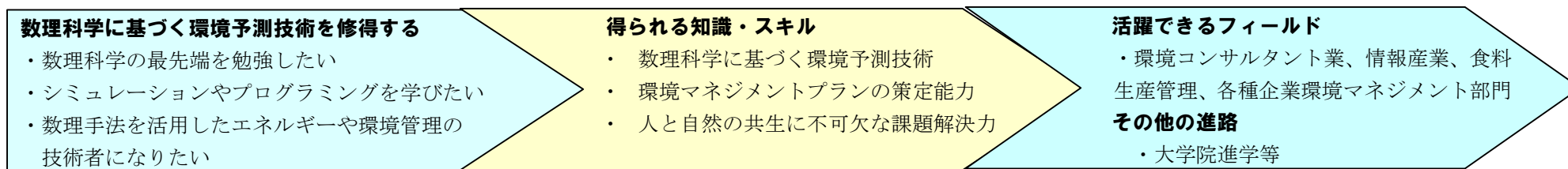
【専門科目履修モデル②】 ◎必修、 専門科目群 (赤字：環境共生圏科目群 緑字：地域社会科目群)

専攻共通科目：10 単位以上、専門科目：12 単位以上 専門発展科目：6 単位以上 【修了必要単位数】 30 単位以上

ただし、専門科目 (赤または緑) は主履修科目群から 8 単位以上、副履修科目群から 4 単位以上修得

年次	1 年次		2 年次	
	前期	後期	前期	後期
大学院共通科目	◎科学者倫理① キャリアマネジメント①			
専攻共通科目	◎生命環境学特論② ◎生命環境学演習 A① ◎生命環境学研究 A②	◎応用生命環境学特論② ◎生命環境学演習 B① ◎生命環境学研究 B②		
専門科目	環境計測評価特論② 環境資源経済学特論②	生物生産環境特論② 資源循環型食料生産特論② 生物環境適応学特論② 農業経済学特論②		
専門発展科目			◎地域環境マネジメント演習 A① ◎地域環境マネジメント研究 A②	◎地域環境マネジメント演習 B① ◎地域環境マネジメント研究 B②
単位数	11 単位	13 単位	3 単位	3 単位

【地域環境マネジメントコース】（環境数理モデル）環境関連の情報システム管理、マネジメント分野の研究者・技術者をめざす履修モデル



食料資源やエネルギー、環境の変動を数理科学的手法により評価・予測する手法を学びます。また、分野横断型カリキュラムによって幅広い素養と問題解決力を身に付け、環境マネジメント分野において指導的役割を担う高度専門職業人をめざします。

【大学院共通教育科目】

2 単位以上：科学者倫理、キャリアマネジメント・サイエンスコミュニケーション

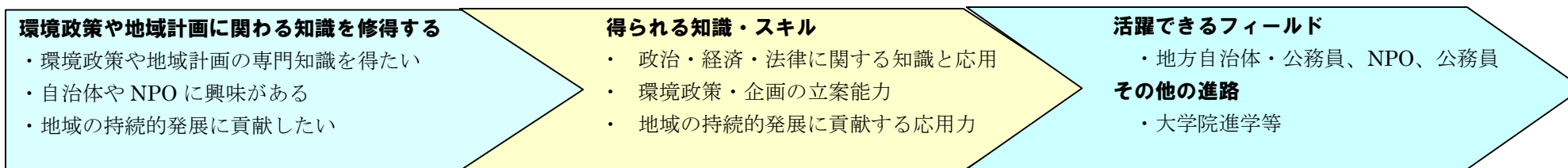
【専門科目履修モデル③】 ◎必修、 専門科目群（赤字：環境共生圏科目群 緑字：地域社会科目群）

専攻共通科目：10 単位以上、専門科目：12 単位以上 専門発展科目：6 単位以上 【修了必要単位数】 30 単位以上

ただし、専門科目（赤または緑）は主履修科目群から 8 単位以上、副履修科目群から 4 単位以上修得

年次	1 年次		2 年次	
	前期	後期	前期	後期
大学院共通科目	◎科学者倫理①	サイエンスコミュニケーション①		
専攻共通科目	◎生命環境学特論② ◎生命環境学演習 A① ◎生命環境学研究 A②	◎応用生命環境学特論② ◎生命環境学演習 B① ◎生命環境学研究 B②		
専門科目	数値コンピューティング特論② 技術開発史特論② 経済分析実習①	環境物理学特論② 環境数理システム特論② 生物生産環境特論② エネルギーマネジメント特論②		
専門発展科目			◎地域環境マネジメント演習 A① ◎地域環境マネジメント研究 A②	◎地域環境マネジメント演習 B① ◎地域環境マネジメント研究 B②
単位数	11 単位	14 単位	3 単位	3 単位

[地域環境マネジメントコース] (環境政策モデル) 自治体やNPOにおける政策立案者や環境管理計画策定の専門家を目指す履修モデル



環境政策や地域計画に関わりの深い知識を学びます。また、分野横断型カリキュラムによって幅広い素養と問題解決力を身に付け、自治体やNPOにおいて地域の持続的発展を実現するための政策・企画立案や環境管理計画の策定に携わる人材を目指します。

【大学院共通教育科目】

2 単位以上：科学者倫理、キャリアマネジメント・サイエンスコミュニケーション

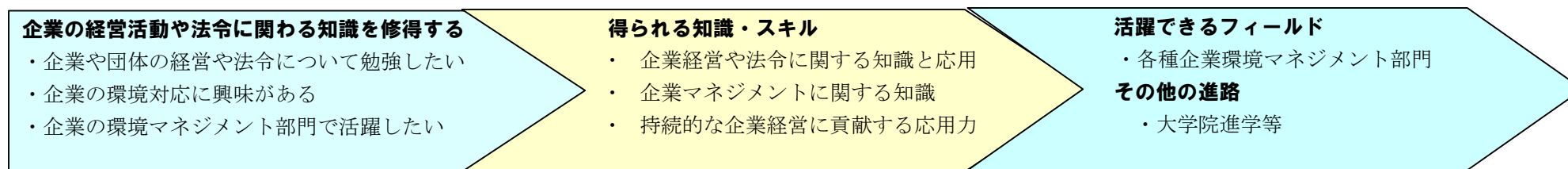
【専門科目履修モデル④】 ◎必修、 専門科目群 (赤字：環境共生圏科目群 緑字：地域社会科目群)

専攻共通科目：10 単位以上、専門科目：12 単位以上 専門発展科目：6 単位以上 【修了必要単位数】 30 単位以上

ただし、専門科目 (赤または緑) は主履修科目群から 8 単位以上、副履修科目群から 4 単位以上修得

年次	1 年次		2 年次	
	前期	後期	前期	後期
大学院共通科目	◎科学者倫理① キャリアマネジメント①			
専攻共通科目	◎生命環境学特論② ◎生命環境学演習 A① ◎生命環境学研究 A②	◎応用生命環境学特論② ◎生命環境学演習 B① ◎生命環境学研究 B②		
専門科目	環境資源経済学特論② 環境政治学特論② 法政システム特論②	エネルギーマネジメント特論② 生物生産環境特論② 資源循環型食料生産特論②		
専門発展科目			◎地域環境マネジメント演習 A① ◎地域環境マネジメント研究 A②	◎地域環境マネジメント演習 B① ◎地域環境マネジメント研究 B②
単位数	13 単位	11 単位	3 単位	3 単位

[地域環境マネジメントコース] (環境経営モデル) 持続可能な企業活動を支えるビジネスマネージャーを目指す履修モデル



企業や団体の経営活動や法令に関わりの深い知識を学びます。また、分野横断型カリキュラムによって幅広い素養と問題解決力を身に付け、持続可能な企業活動を支えるビジネスマネージャーを目指します。

【大学院共通教育科目】

2 単位以上：科学者倫理、キャリアマネジメント・サイエンスコミュニケーション

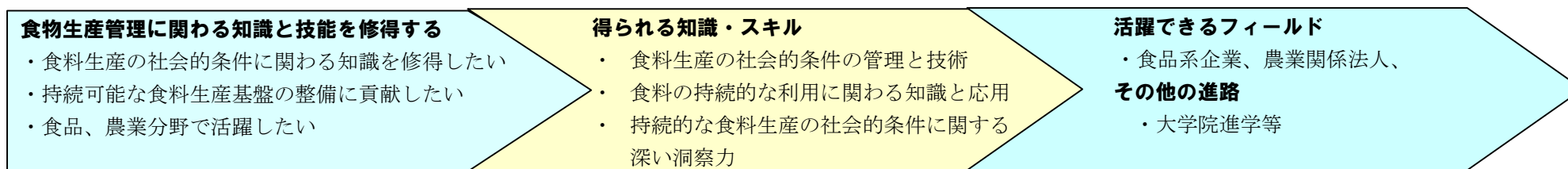
【専門科目履修モデル⑤】 ◎必修、 専門科目群 (赤字：環境共生圏科目群 緑字：地域社会科目群)

専攻共通科目：10 単位以上、専門科目：12 単位以上 専門発展科目：6 単位以上 【修了必要単位数】 30 単位以上

ただし、専門科目 (赤または緑) は主履修科目群から 8 単位以上、副履修科目群から 4 単位以上修得

年次	1 年次		2 年次	
	前期	後期	前期	後期
大学院共通科目	◎科学者倫理① キャリアマネジメント①			
専攻共通科目	◎生命環境学特論② ◎生命環境学演習 A① ◎生命環境学研究 A②	◎応用生命環境学特論② ◎生命環境学演習 B① ◎生命環境学研究 B②		
専門科目	技術開発史特論② 経済分析実習①	経営学特論② 企業活動と法特論② 多文化共生特論② 生物生産環境特論② 生物環境適応学特論②		
専門発展科目			◎地域環境マネジメント演習 A① ◎地域環境マネジメント研究 A②	◎地域環境マネジメント演習 B① ◎地域環境マネジメント研究 B②
単位数	10 単位	15 単位	3 単位	3 単位

【地域環境マネジメントコース】（食料生産基盤整備モデル）持続的な食料生産・利用の社会的条件整備に関する企画立案者を目指す履修モデル



持続可能な食料生産の社会的条件および食料の持続的な利用に関する知識と応用を学びます。また、分野横断型カリキュラムによって幅広い素養と問題解決力を身に付け、持続可能な食料生産の社会的条件の整備に貢献できる人材を目指します。

【大学院共通教育科目】

2 単位以上：科学者倫理、キャリアマネジメント・サイエンスコミュニケーション

【専門科目履修モデル⑥】 ◎必修、 専門科目群（赤字：環境共生圏科目群 緑字：地域社会科目群）

専攻共通科目：10 単位以上、専門科目：12 単位以上 専門発展科目：6 単位以上 【修了必要単位数】 30 単位以上

ただし、専門科目（赤または緑）は主履修科目群から 8 単位以上、副履修科目群から 4 単位以上修得

年次	1 年次		2 年次	
	前期	後期	前期	後期
大学院共通科目	◎科学者倫理① キャリアマネジメント①			
専攻共通科目	◎生命環境学特論② ◎生命環境学演習 A① ◎生命環境学研究 A②	◎応用生命環境学特論② ◎生命環境学演習 B① ◎生命環境学研究 B②		
専門科目	環境資源経済学特論② 財政学特論②	生物生産環境特論② 資源循環型食料生産特論② 農業経済学特論② 地域計画学特論②		
専門発展科目			◎地域環境マネジメント演習 A① ◎地域環境マネジメント研究 A②	◎地域環境マネジメント演習 B① ◎地域環境マネジメント研究 B②
単位数	11 単位	13 単位	3 単位	3 単位

生命環境学専攻 各コースの授業科目整理表

コース	バイオサイエンスコース	コース	食物・ワイン科学コース	コース	地域環境マネジメントコース
科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称
大学院共通	科学者倫理	大学院共通	科学者倫理	大学院共通	科学者倫理
	キャリアマネジメント		キャリアマネジメント		キャリアマネジメント
	サイエンスコミュニケーション		サイエンスコミュニケーション		サイエンスコミュニケーション
	小計 (3科目)		小計 (3科目)		小計 (3科目)
専攻共通科目	生命環境学特論	専攻共通科目	生命環境学特論	専攻共通科目	生命環境学特論
	応用生命環境学特論		応用生命環境学特論		応用生命環境学特論
	生命環境学演習 A		生命環境学演習 A		生命環境学演習 A
	生命環境学演習 B		生命環境学演習 B		生命環境学演習 B
	生命環境学研究 A		生命環境学研究 A		生命環境学研究 A
	生命環境学研究 B		生命環境学研究 B		生命環境学研究 B
	インターンシップI		インターンシップI		インターンシップI
	インターンシップII		インターンシップII		インターンシップII
小計 (8科目)	小計 (8科目)	小計 (8科目)			
バイオサイエンスコース科目	専門科目	構造生物学特論 (→食)	食物・ワイン科学コース科目	専門科目	食品成分分析学特論 (→バ)
		応用微生物学特論 (→食)			食品物性工学特論 (→バ)
		生物有機化学特論 (→食)			発酵食品学特論
		環境微生物資源学特論 (→環) (→食)			農作物栽培生理学特論 (→環)
		生命情報学特論 (→食) (→環)			農作物・食品製造実習
		細胞生産プロセス工学特論 (→食)			応用微生物学特論 (←バ)
		発生工学特論 (→食)			環境微生物資源学特論 (←バ)
		発生制御学特論			環境資源経済学特論 (←環)
		代謝栄養学特論 (→食)			資源循環型食料生産特論
		代謝栄養学特論 (→食)			代謝栄養学特論
	バイオサイエンス演習 A	経営学特論 (←環)			
	バイオサイエンス演習 B	農業経済学特論 (←環)			
	バイオサイエンス研究 A	官能評価学特論			
	バイオサイエンス研究 B	地域食品ブランド学特論			
	研究発表特論 A	地域食品企業経営学特論			
研究発表特論 B	地域食品企業インターンシップ				
小計 (15科目)	ワイン醸造学特論				
他コース科目	関連科目	食品成分分析学特論 (←食)	専門発展科目	関連科目	食物・ワイン科学演習 A
		食品物性工学特論 (←食)			食物・ワイン科学演習 B
		多文化共生特論 (←環)			食物・ワイン科学研究 A
		環境計測評価特論 (←環)			食物・ワイン科学研究 B
		環境浄化技術特論 (←工学)			研究発表特論 A
		分析化学特論 (←工学)			研究発表特論 B
		生命倫理概論 (←医学)			小計 (26科目)
		生命科学特論 II (病態制御) (←医学)			多文化共生特論 (←環)
		実験動物学・動物倫理学概論 (←医学)			生物有機化学特論 (←バ)
		小計 (9科目)			細胞生産プロセス工学特論 (←バ)
	構造生物学特論 (←バ)				
	生命情報学特論 (←バ)				
	発生工学特論 (←バ)				
	小計 (6科目)				
	他コース科目	関連科目	他コース科目	関連科目	環境共生圏科目群
	気水圏環境動態解析特論				
	生物圏環境動態解析特論				
	環境計測評価特論 (→バ)				
	生物生産環境特論				
	資源循環型食料生産特論				
	生物環境適応学特論				
	環境物理学特論				
	数値コンピューティング特論				
	環境数理システム特論				
	環境共生圏科学実習				
	地域社会科目群				
	環境資源経済学特論 (→食)				
	農業経済学特論 (→食)				
	経営学特論 (→食)				
	技術開発史特論				
	地域計画学特論				
	エネルギーマネジメント特論				
	環境政治学特論				
	財政学特論				
	法政システム特論				
	企業活動と法特論				
	多文化共生特論				
	経済分析実習				
	地域環境マネジメント演習 A				
	地域環境マネジメント演習 B				
	地域環境マネジメント研究 A				
	地域環境マネジメント研究 B				
	研究発表特論 A				
	研究発表特論 B				
	小計 (28科目)				
	環境微生物資源学特論 (←バ)				
	生命情報学特論 (←バ)				
	農作物栽培生理学特論 (←食)				
	流域管理特論 (←工学)				
	陸水水質評価特論 (←工学)				
	環境浄化技術特論 (←工学)				
	小計 (6科目)				

- (→バ): バイオサイエンスコースへ開放
- (→食): 食物・ワイン科学コースへ開放
- (→環): 地域環境マネジメントコースへ開放
- (←バ): バイオサイエンスコースから開放
- (←食): 食物・ワイン科学コースから開放
- (←環): 地域環境マネジメントコースから開放
- (←工学): 工学専攻から開放
- (←医学): 医学専攻から開放

教員の定年に関する規程

国立大学法人山梨大学職員就業規則（関係部分抜粋）

平成16年 4月 1日制 定

平成26年11月28日最終改正

第2章 採用・退職等

第5節 退職及び解雇

(定 年)

第27条 常勤職員の定年は、満60歳とする。ただし、大学教員については、満65歳とする。

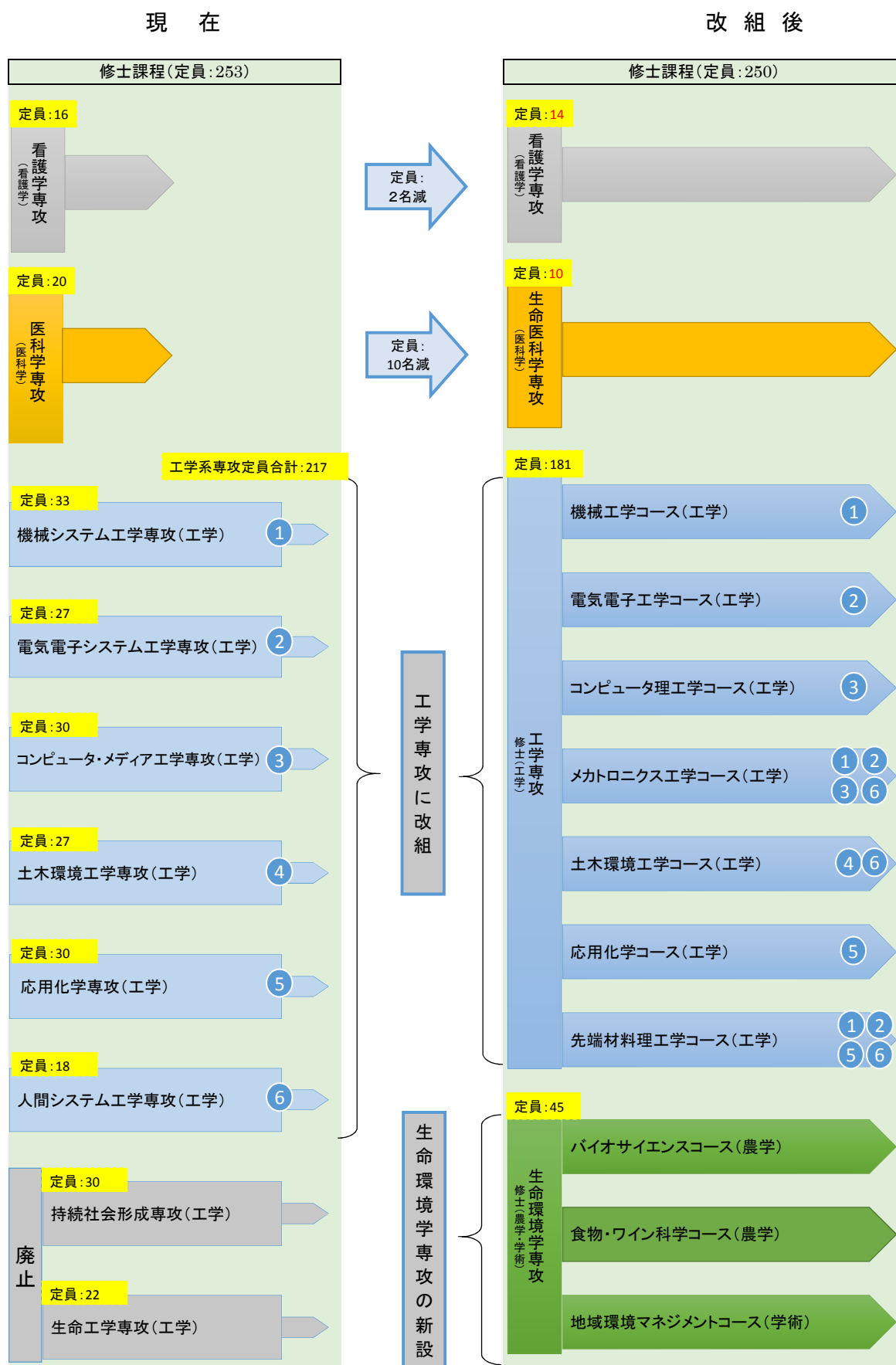
2 定年による退職の日（以下「定年退職日」という。）は、定年に達した日以後における最初の3月31日とする。

(定年の特例)

第28条 学長は、定年に達した職員が前条の規定により退職すべきこととなる場合において、その職員の職務の特殊性又はその職員の職務の遂行上の特別の事情からみて、その退職により業務の運営に著しい支障が生ずると認められる十分な理由があるときは、その職員に係る定年退職日の翌日から起算して1年を超えない範囲内で、定年退職日を延長することができる。

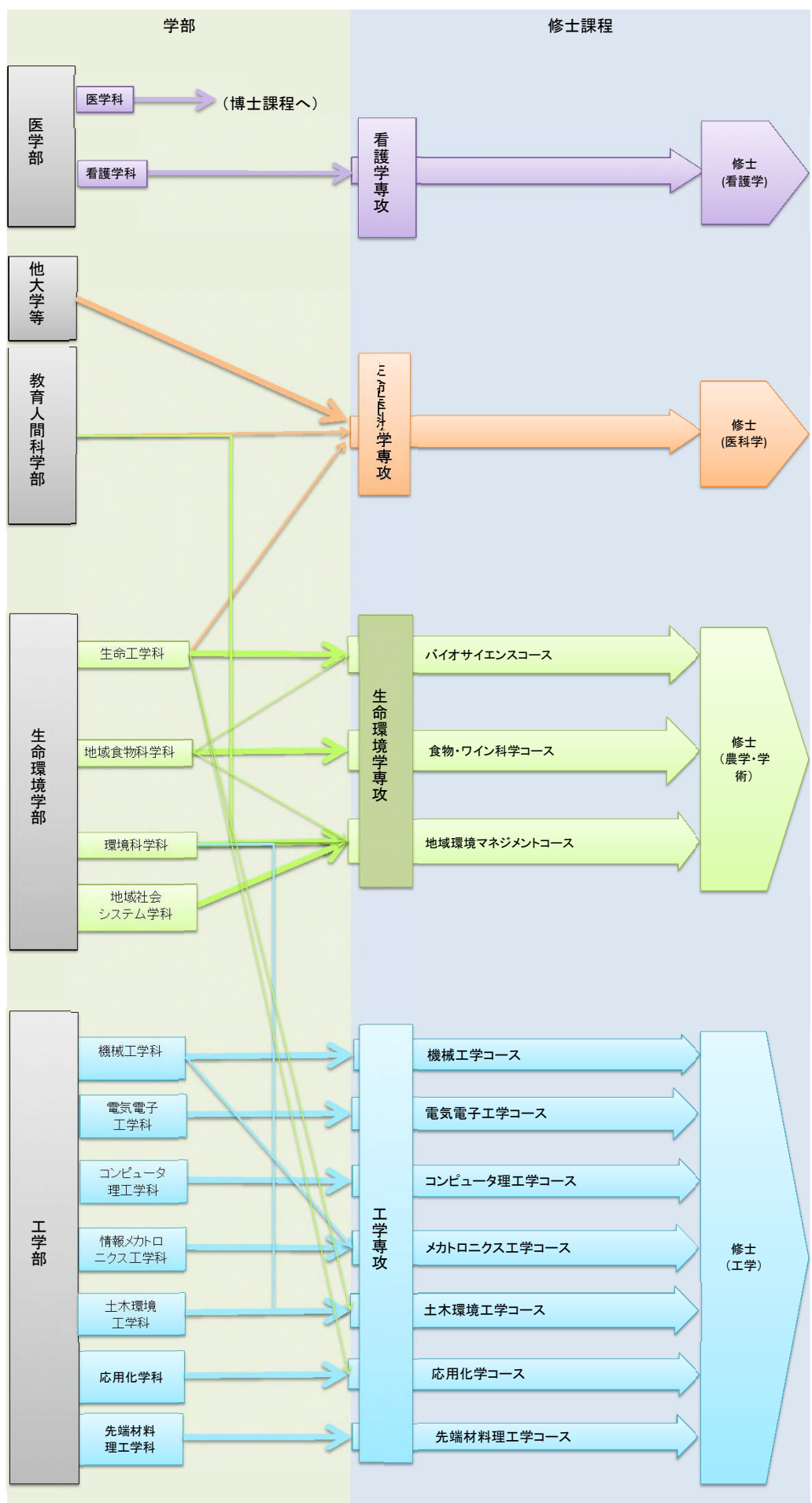
2 学長は、前項の規定により延長された定年退職日が到来する場合において、前項の事由が引き続き存するときは、1年を超えない範囲内で定年退職日を延長することがある。ただし、その期限は、その職員に係る定年退職日の翌日から起算して3年を超えることができない。

改組前後の教育組織の全体像、入学定員の移行図



※ 現状の医学工学総合教育部修士課程の収容定員は500名であり、改組後の収容定員を500名とするため、入学定員を250名とする。(持続社会形成専攻の短期(1年)コース(定員6)を廃止するため、入学定員は253→250となる)

改組後の学部と大学院の接続(学生の流れ)



[ホーム](#) > [大学概要](#) > [教育情報の公表](#) > [教育情報の公表](#)

教育情報の公表

学校教育法施行規則等の一部を改正する省令（平成22年文部科学省令第15号）の施行に伴い、山梨大学の教育に関する情報について公表いたします。

1 大学の教育研究上の目的に関すること

[教育人間科学部](#)

[医学部](#)

[工学部](#)

[生命環境学部](#)

[大学院教育学研究科](#)

[大学院医学工学総合教育部（修士課程）](#)

[大学院医学工学総合教育部（博士課程）](#)

[特別支援教育特別専攻科](#)

2 教育研究上の基本組織に関すること

[学部、学科、課程等の名称](#)

3 教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること 教員組織

[教員組織](#)

[職員数（所属・職名別）](#)

[教員数（部署・職名・年齢別）](#)

[教員の保有学位、職務上の実績](#)

4 入学者に関する受入方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

[入学者に関する受入方針](#)

[入学者数](#)

[収容定員](#)

[在学者数](#)

[卒業・修了者数](#)

[進学者数、就職者数、就職先及び進学先の状況](#)

5 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

[授業科目（電子シラバス）](#)

[授業の方法及び内容並びに年間の授業計画の概要（電子シラバス）](#)

6 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

[卒業・修了年限及び卒業・修了にあたっての必要な修得単位数](#)

[取得可能な学位](#)

[取得可能な資格関係](#)

7 校地，校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

[所在地](#)

[交通案内](#)

[キャンパスマップ](#)

[大学施設](#)

[学生寄宿舍](#)

[運動施設](#)

[課外活動の状況（サークル一覧）](#)

8 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

[授業料、入学料](#)

[入学料免除、授業料免除](#)

[施設利用](#)

9 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

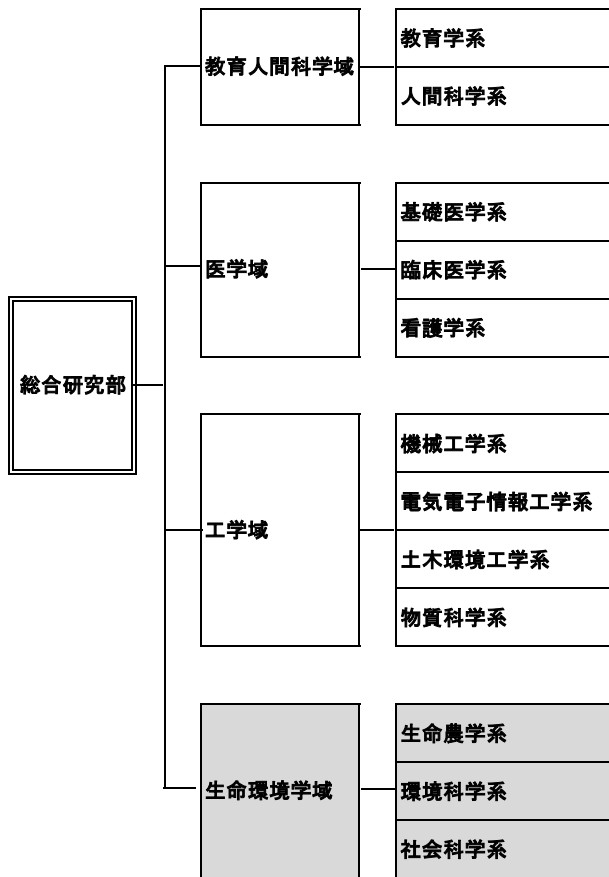
[学内の学生支援組織](#)

[奨学金の概要](#)

[その他の学生支援](#)

教育研究組織図

【教員組織】



【大学院組織】

